

石川県リハビリテーションセンターニュース

リハビリテーション研修会の開催

1 地域リハビリテーション研修会

平成13年8月10日（金）に北九州市にある小倉リハビリテーション病院長の浜村明德先生をお招きし、「地域リハビリテーションにおける各領域の役割と機能」というテーマで、医療・保健・福祉等関係者の連携による効果的なリハビリテーション活動の推進を目指して、医療・保健・福祉等すべての分野を対象として、地域リハビリテーション研修会を開催いたしました。

先生の病院である小倉リハビリテーション病院では、現在回復期リハに積極的に取り組まれ、平均在院日数85日、在宅復帰率84%でかなりの人が短期間で在宅復帰されているそうです。

地域リハビリテーションとは、障害を持ちながら在宅で生き生きとしてその人らしい生活をしていくために生じる問題を、保健活動のみでなく、保健・福祉・医療の各領域のさまざまな人々と一緒に、リハビリテーションという概念のもと、まとめ作り上げながら地域を育てていく事、地域づくりである。」と話されました。

2 回復期リハビリテーション研修会

平成13年12月8日（土）に今、リハビリテーション医療において最も注目を浴びている回復期リハビリテーションについて、富山県高志リハビリテーション病院より講師をお招きし100名近くの参加者で研修会を開催いたしました。

「回復期リハビリテーションの実際」というテーマで、副院長である野村忠雄先生・杉元理学療法科長・相澤リハ病棟婦長からそれぞれの立場でお話いただきました。

まず、回復期リハビリテーション病棟の基準や病棟の体制、病棟設置までの経過や運営方法、病棟導入前後の変化やその成果と今後の問題点等概要についてと富山県における地域リハビリテーション支援体制整備事業の実施状況についても野村先生より話されました。次に看護部門からは、朝夕の2回ミーティングを行い情報交換を密に実施することにより患者の問題点の共通化が図られ、チームで一貫した支援が行えること。病院での「できるADL」の向上・「しているADL」の習熟と定着化や家庭での「するADL」へに支援が必要であることが話されました。また理学療法部門からは、「しているADL」として、新患の評価は病棟の動作を確認してから理学療法室での評価を実施することや評価の際、現状機能の共通認識を図るために看護婦の同席により実施していること等話されました。



参加者からは、回復期リハビリテーション病棟における具体的な問題点や、他職種との情報交換の必要性・的確なADL指導の大切さ等チームで患者を支援する際の基本が学べたとの感想も聞かれました。

3 生活環境づくり相談担当者研修会

研修会は、福祉用具・住宅改修により高齢者等が住宅で生活を継続するために必要な環境を整備する時に、必要なプランを作成する介護支援専門員等を対象として実施しました。

県保健福祉センターの御協力のもと、南加賀、金沢・石川中央、能登中部、能登北部の4ブロック5日間にわたり行い、テーマは各ブロックの実情に応じて設定しました。主なものは、福祉用具・住宅改修における観察ポイントと改修箇所別ポイント、疾患・障害からみた支援のあり方、改修プラン作成の実習、市町村との連携、福祉用具試用体験等です。

グループワークにより改修プラン立案を体験しました。各グループ特色のあるプランが立てられ、他グループにも良い参考となったようでした。またよりよい生活環境を作るためには、多くの職種の関わりが必要であり、市町村との連携は重要であるとの感想もみられ、チームづくりの大切さに気づかれたようでした。

北欧視察研修報告

デンマークにおける利用者主体の福祉用具提供体制

岸 谷 都

平成9年、知事の北欧訪問調査を機に結ばれたデンマークのデニッシュセンター（国レベルの福祉用具研究・情報機関）およびリーベ県テクニカルエイドセンターと当県の研究交流は3年を経過し、この間、リーベ県へ理学療法士・作業療法士が2ヶ月間滞在し、高齢者・障害者における福祉用具の適合、専門職による技術支援体制を研修しました。

今回は、13年10月に福祉用具の開発・流通側の企業の方、中間ユーザーの施設の方、ソーシャルワーカー、行政政策担当者とともに、リーベ県で1週間、福祉用具の活用状況について利用者の生活の場、支給体制、企業の開発体制を見てきました。

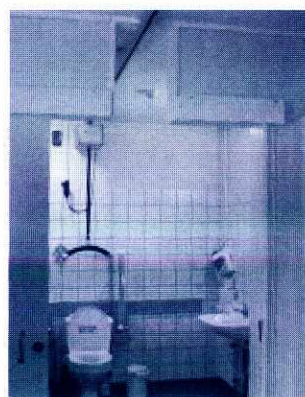
デンマークでは福祉用具は市の貸与事業であり、市の療法士が選定し、市の保管庫へ必要な物を依頼します。既製品とはいえ、多くの物は貸与制度で利用されるため、企業も調整機能のついた物を開発し、選定、適合、調整は市の療法士が行なっています。また、個別対応が必要なものは、市の判定で企業へオーダーされますが、これも貸与事業として行われています。また市だけでは対応できない専門的な物に関しては県のテクニカルエイドセンターが支援を行っています。日本では、病院や施設入所中は、施設の備品を使用するのが原則であり、車いす一つとっても体に合わない物に座らされ、快適な生活を送ることができません。しかし、リーベ県で見学した病院では、入院中でも病院の豊富に揃った福祉用具から個人個人に合った物の提供を受けることができます。また、退院後は、各地域毎（人口5千人―1万人）に地域センターがありその周囲に高齢者住宅、障害者住宅が点在し、自宅への復帰が困難な人は地域センターからの訪問看護、ヘルパー、理学療法士・作業療法士の派遣を受けることができます。またそこにデイサービスもあり、地域ケアの拠点となっています。日本では、在宅生活が困難な場合、施設への入所となり、一律のサービスがバックになった施設での集団生活が始まります。私たちが訪れたある地域センターの周辺には平屋の高齢者住宅が点在し、地域センターの職員が各個

人個人に必要なサービスを提供していました。移乗に介助が必要な方にはリフターが活用されていました。1日数回の移乗も人力ではなく必ず機械を使用すること、リフターは2人で使用することという規則であり、介護労働者の健康にも配慮されていました。歩いて5分程度の地域センターでも各個人の住宅から外出用のコートを着て、電動車いすでデイサービスへ通う様子を見てみると、日本であったなら、3-4階建ての建物を作り、入浴、食事もある表現ですが「一度に束ねて」介護しようとはしますが、各個人の生活を大切にするデンマークでは、地域センター内の各個人の住宅（日本では施設内の個室）で、入浴、食事ができるように重度の介護が必要な方の住宅にも台所、サンタリー、寝室、居間があります。日本人の意味する「効率化」という言葉では、はなはだ非効率的なことでしょう。

今回の参加者は、それぞれ立場は違いますが、一致した意見は、福祉用具は各個人への適合が充分行なわれる体制が必要であり、専門職の充実、福祉用具を単に物の提供とみなすのではなく、重要な福祉サービスの一つとみなすことが重要だということでした。また、生活の場がどこであろうとも、途切れない、福祉用具の提供が必要であるということでした。現在の日本の支給制度は、身体障害者福祉法での補装具の支給、介護保険での貸与制度が一般的ですが、必要な時に的確に必要な物を提供されない幾つかの制度の不備の改善の声が以前から現場で上がっていました。現行の制度を早急に改善することが難しいのなら、県や市町村で合議し、利用者に必要な貸与制度を検討する必要があります。それには福祉用具関連企業、専門職、行政機関のみならず、利用者が参加する協議の場が必要であり、ひいては社会全体の課題として、誰もが当事者であるという意識で議論すべき課題だと思います。

デンマークは日本よりも比較的緩やかに高齢化が進みましたが、多くの苦悩の歴史を経て、社会問題として高齢者・障害者問題に取り組んできました。日本はあまりにも急速に高齢化が進み、現実に社会制度が追いつけない現状はあります。誰でもデンマークは税金が高いから社会保障が手厚いので、経済が不安定な日本は真似できないと言います。しかし、個人の生活を大切にするという基本理念があり、そのための社会保障であるという安心感が、社会活動や経済活動を活発に生み出すということも忘れてはならないと思います。

最後に、アメリカのテロ発生から1ヵ月後のデンマーク出発は、多少なりとも参加者にも動揺があり、また皆様にご心配もおかけしました。しかしながら、リーベ県テクニカルエイドセンター所長や関係者のご配慮で短期間ながらも、充実したプログラムを組んでいただき、心温まるおもてなしを受けました。また、日頃顔を合わせながらも、日本では充分話もできない立場の違う参加者とともに同じテーマで意見交換できたことも大きな収穫でした。あらためて関係者に感謝を申し上げます。



サンタリーと寝室を結ぶ
天井走行リフター



個人の家具を持ちこんでいる
地域センター内の障害者住宅

バリアフリー推進工房 福祉用具情報

今年度、下表に示す福祉用具（備品）を購入しました。このうち、会話補助装置と車いすについて紹介します。

種 別	商 品 名	メーカー／国内代理店
会話補助装置	トーキングエイド／オートスキャン	(株)ナムコ
会話補助装置	テック／スキャン	(株)アクセスインターナショナル
呼び出し装置	スマートホンW	(株)デルカテック
スイッチ	ピンタッチスイッチ	パシフィックサプライ(株)
スイッチ	タッチセンサーES-100	友愛メディカルサービス(株)
車いす	ティルト&リクライニング車いすKX	(株)カワムラサイクル
車いす	インテグラルTX	(株)オーエックスエンジニアリング
シャワーキャリア	自走式入浴用車いすKS7	(株)カワムラサイクル

■会話補助装置

トーキングエイド／オートスキャン

50音のキーを押して、文字を発声させたり、記録させたりする装置。パソコンと接続してキーボードとして利用することができる。また、オートスキャン（図右）と接続することで、適当なスイッチを用いてキーを選択することができる。



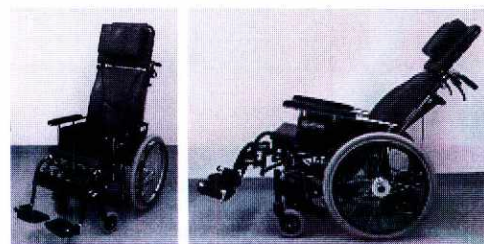
テックスキャン

あいさつや応答などの固定メッセージを64個（32×2）まで録音し、発声させる装置。直接キーを押したり、適当なスイッチを接続してキーを選択することができる。

■車いす

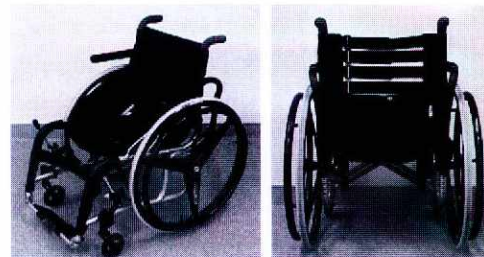
ティルト&リクライニング車いすKX

身体を拘束せずに座位姿勢を保持するため、シート角度やバックレスト角度の調整ができるティルト&リクライニング機能付きの車いす。立体バックレスト、脚部スイングアウト機構等が備わっている。また、オプションの取付で電動補助ユニットの装着が可能である。



インテグラルTX

頸髄損傷等による四肢麻痺者や対麻痺者が、座位保持、駆動動作、移乗動作を達成できるように工夫された車いす。シートやバックレストの角度・形状、駆動輪取付位置等をユーザに合わせて設定することができる。



この他、当センターには約800点の福祉用具があり、試用評価等を目的とした貸出が可能です。要望・質問等ありましたら、ご連絡下さい。

啓発普及の場から

当センターでは、一般の方、学生、リハビリテーションの関連の方等に、リハビリテーション関連の短い話、車椅子やリフト等福祉用具の見学や体験、バリアフリー体験住宅「ほっとあんしんの家」での体験等を通して、リハビリテーションの啓発普及を行っています。

本年度も、12月までに1,200人程の方が訪れました。

その中で、中学生の職場体験の授業の一環で10人の男子学生が参加した活動を紹介します。

彼等には、グループに分かれて車椅子の基本的な扱い方と車椅子の掃除を計画しました。

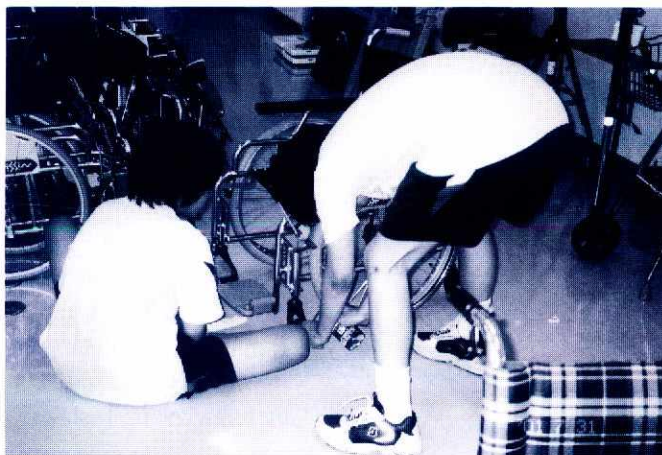
日頃、病院等で遠日には目にしている車椅子でも、実際に扱うのは初体験者が殆どで、折り畳んである車椅子を開く時には手指を座面の内側にして押さえないと指を挟んで怪我の元。乗降時にはブレーキをかけておかないと危険との留意点を聞いたり、日頃は気にならない坂道や段差等でも車椅子で乗り越えるには大きな障害になる事を実際に体験して「乗り方が大変だ」「坂道、段差が大変」「障害のある人は大変だ」「介助者のやり方で不安になったり、安心して任せられたりした。心配りが必要だ」「リハビリする人も介護する人も苦勞して生きて行かなければいけないから辛いと思った。でも頑張っている姿はすごい」「障害者の不便を感じ、それを助ける事が人の役目だと思った」等の感想が聞かれました。

車椅子の掃除では、先ず、キャスターを外すと、中に髪の毛や埃や糸屑等が車軸に巻き付いて外から見ると汚れの多さにびっくりし、早速ゴミを取り除き、ぼろ布で丁寧に拭いてワックスをスプレーして元に戻し、次に、駆動輪の空気圧の調整と車体の汚れをふき取る日常の手入れを行いました。1台につき約20分。さすが10人いれば10の個性で、磨く者、ゴミを取る者等それぞれが得意な分野を受け持ってチームプレーよく熱心に行っていました。

「始めは嫌だと思ったが、楽しかった」「掃除前よりピカピカで気持ちが良い。そしてなにより車が軽く動き運転しやすい。でもこんなに掃除をしなくてはいけないと思わなかった。僕には無理だ」等の感想が聞かれました。

「触れて 見て 体験して 確かめる」中で、理屈ではなく体験して感じた事を素直にそれぞれが自分の物としていた様に感じました。

リハビリテーションに関連する小さな体験を通して、障害を持った方の気持ちを察したり、自分達ができる事をやろうとする気持ちが出てきたり等で、リハビリテーションの裾野が広がっていけばと思っています。



住宅改修・福祉用具の選定

高齢者の生活環境を作っていくためには、現在暮らしている住み慣れた家で、高齢者の持っている力を最大限に活用することが必要です。能力を活用するために多角的視点からの意見を参考にしましょう。

チーム支援が大切！支援者の役割は？



本年度当センターでは、介護支援専門員等を対象として高齢者の生活環境づくり相談担当者研修会を開催いたしました。

地域の支援に関わる方々に住宅改修や福祉用具を選定する際の視点やそれを進めるときの考え方等について理解を深めていただくために、研修会でのテキスト等を資料集として取りまとめました。

御希望の方は、当センターまで御連絡下さい。

編集・発行 石川県リハビリテーションセンター
〒920-0353 金沢市赤土町ニ13-1
TEL (076) 266-2866 FAX (076) 266-2864
E-mail iprc@po.incl.ne.jp
ホームページは「石川県」版に開設
<http://www.pref.ishikawa.jp/eisei/rihabiri/index.html>

